

岩手大学 地域連携フォーラム in 八幡平 開催

岩手大学と連携した取り組みに理解深める

市と岩手大学は2月21日、相互の連携をより促進させること、市内の企業や市民が大学との連携につなげることを目的に、地域連携フォーラム in 八幡平を開催しました。

3年ぶり6回目の開催となる同フォーラムは八幡平ハイツを会場に、市民、市内企業、平館高の生徒ら約140人が参加。同大学の他地域における活動事例や技術支援などが紹介され、市との連携事例の報告もありました。

事例発表では、寺田地区と協働で防災マップを作成した防災強化の取り組みや同大学が開発した大豆「貴まる」を活用し、生産から加工・販売



同大学に派遣されている共同研究員による本市の地域連携活動報告

まで市内で完結した新たな特産品に向けた取り組みについて、同大学教授と学生から報告されました。

地域課題解決プログラム(※)で、八幡平温泉郷来訪者へアンケート調査を実施し、現状分析を行った同大農学部4年の佐々木啓さん(山崎)は「八幡平市は自然に恵まれ、魅力にあふれている。それをPRしていくためには、市民が地元の魅力を知ることが大切」と考えを示しました。

平館高2年の工藤駆竜さんは「八幡平市を盛り上げようとするさまざまな取り組みを知ることができてよかった」と地域と大学との連携に関心を寄せました。

(※)地域課題解決プログラムは自治体や企業の抱える課題を同大学教員指導のもと、学生視点から研究することで新たな展開を期待するもの。

■市産学共同研究事業費補助金

市は、市内中小企業者などが大学などと共同研究を実施するものに対し、補助金を交付します。補助額は経費の2分の1以内で限度額は50万円。詳しくは、企画財政課地域戦略係(☎・内線1207)まで。

スパルタキャンプの取り組みが実を結び

ソフトウェア関連2社起業

市の新たな産業と雇用創出に期待高まる

市が主催する受講料無料の短期集中プログラミング講座「スパルタキャンプ」の受講生2人が1月31日、西根総合支所3階の市起業家支援センターで、市と企業立地に関する協定書を取り交わしました。

市と協定を締結したのは、プログラミング教育ソフトウェア開発を行う「アクセルゲート合同会社(阿部拓磨代表社員)」とソフトウェア受託開発を行う「株式会社NEXT REVOLUTION(高橋一真代表取締役)」の2社。同センター利用者として初の起業で、今後も同センターのシェアオフィスを拠点に事業を展開していきます。

田村正彦市長は「プログラミングなどIT技術が入ることで、仕事がうまく回っていくことがあると思う。若い皆さんで連携を取りながら市の産業の発展に生かしてほしい」と期待し、社名板を記念品として贈呈しました。

すでに小学生向けのプログラミング教室「アク



協定書に調印し、手を合わせる(左から)阿部代表社員、田村市長、高橋代表取締役

セルキャンプ」を開催している阿部代表社員は「中学生、高校生と範囲を広げ、技術者をここから育成していきたい」と将来を見据えました。

スパルタキャンプ1回生で、市からキャンプ運営を受託している株式会社NOWALLへ転職し、キャンプの講師を務めるなど活動の場を広げてきた高橋代表取締役は「ITの仕事は地方に住んでいてもできる。今は一人のスタートだが、これから同じビジョンを持っている仲間を増やし、市の雇用につなげていきたい」と意欲を燃やしました。